

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100592		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム やまぶき 1階		
所在地	〒020-0064 盛岡市梨木町5-55		
自己評価作成日	令和6年12月日	評価結果市町村受理日	令和7年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者には、音楽体操や歩行運動などを通じて筋力低下を防ぐ働きかけを行っている。個々の体力や運動能力・身体機能を考慮、しー人ひとりに合った運動を取り入れている。季節の行事やクラフトの作成により、季節感を味わえるように工夫している。また、屋上を利用して野菜を育てて収穫して食事時に提供する・山菜の下処理や、干し柿づくり等を通じて季節を感じてもらえる努力をしている。屋上からの岩手山や四季折々の山々の眺めは格別である。また、医療面では看護師が常駐しており受診援助や医師への情報提供・家族への連絡・報告をしている点では、家族にとって一つの安心材料ではないかと考えている。感染症に配慮した造りになっており、玄関から直接エレベーターで2階に上がれるようになっている。感染症が発生した場合は、玄関を分けて交差することなく出入りできるようになっている。また、キッチンにはダムウェーターが設置されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛岡駅から夕顔瀬橋を渡り徒歩圏15分圏内に位置する事業所は、二つのユニットからなる2階建てで屋上部分を菜園として利用している。日常生活介護を行う職員とは別に、専任の清掃担当職員、入浴担当職員を配置し、更に医療機関と連携して受診等を担当する看護師も配置し、充実した職員体制が築かれている。支援の基本に音楽体操、踏み台昇降などを日課に取り入れ、個の特性に応じた筋力の低下防止に取り組んでいる。両ユニット共有のスペースである屋上で職員と一緒に野菜をプランター栽培するなど利用者の馴染みの取り組みとして、利用者が積極的に作業に当たり、収穫したものはおやつや食材として活用されている。1階と2階の入口を分け職員も別々の入口を利用し、ホールと居室も離れており、感染症予防対策に資する配置となっている。また、市主催の地震防災訓練の「シェイクアウト」に毎年参加するなど、災害対策にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

〔評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会〕

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社共通の理念である「私たちはいつもあなたのそばにいて心の声を聞いています」を念頭に日々の仕事に励んでいる。理念は玄関や各フロアに掲示し介護の指針となるようにしている。日々の業務の中でも利用者が本当は何を思っているのか？と考えながら表情や仕草から読み取れるようにしている。	基本理念に基づき、思っていることを言葉で表出することが困難な利用者には、表情や仕草の変化から意向を探り理解に努め、得た情報の共有に努め利用者支援に取り組んでおり年に一度、支援を振り返る場を設けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板も回してもらっている。今年の夏もホームの玄関前で子供神輿を披露してもらった。お礼にお菓子を渡して握手や会話をするなど交流を図っている。 また今年は町内会が合同で八幡宮祭典に山車を出すとの事で自治会長のお力添えをいただきホームの前の道路を山車が通り全員が外に出て音頭上げをしてもらい山車を楽しんだ。	町内会に加入し回覧板に事業所の概要説明を挟み込んでもらうなどして、地域から事業所への理解を得る一助としている。子ども神輿のお飾り集めに協力したり、八幡宮祭典の山車を迎えたりするなど地域との交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進協議会を通じて情報提供をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進会議は地域の代表者・家族代表・地域包括支援センターや利用者代表が集まって開催している。その中で助言を頂くなどしている。今年は八幡宮例大祭の山車や子供神輿・オレンジガーデニングプロジェクトなどの情報をもらい見学・参加できた。	運営推進会議は、2ヵ月に1回、地域包括支援センター職員、町内会長、老人クラブ会長、民生児童委員、利用者・利用者家族代表、事業所管理者（ケアマネ）及び法人の担当部長で構成され対面で開催している。 会議では地域の防災組織の情報を提供してもらうなど、防災面での協力も依頼している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が出席してもらっている。不明な点については市の担当者に質問・相談し指導してもらっている。様々な情報をメールでもらっている。	地域包括支援センターの職員が運営推進会議のメンバーとなっている。市の担当者には随時、質問、相談できる関係を築いている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やまぶき 1階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し3カ月に1回以上会議を行い、身体拘束のないケアに努めている。また、WEB研修や勉強会を行い日々の自分の言葉がけや介護の振り返りもすることが出来た。	3カ月に1回身体拘束委員会を開催している。委員会は、各ユニットの管理者と職員1名、看護師と法人の担当部長で構成されている。委員会の様子は会議録で共有し、全職員が身体拘束のないケアに努めている。スピーチロックについても、職員お互いに注意し合える環境を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止ポスターを掲示・入浴時には全身観察を行いアザなど出来ていないか確認している。職員相互に言動に不適切な部分がないか確認したりしながら些細な変化を見過ごさないように努めている。また、WEB研修などを通じて知識を深めどのような言動が虐待に当たるか確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時、担当者が対応している。今年度は家族が後見人の他は新たに契約等を行った事例はなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、契約書・重要事項説明書を説明し入居や退居の条件・身体拘束や看取りについてなど理解してもらってから契約してもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会での意見のほか、面会時やケアプラン発送時・電話などで意見や要望が無いかなきとるように努めている。	運営推進会議に、利用者代表と家族代表がメンバーとなっており意見を頂いている。日常的に、面会や電話連絡等の機会に家族からの要望等を確認している。家族に個別援助計画を見直しする書類を郵送する際には、利用者の様子を簡単に伝えながら写真を同封している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で職員の意見や要望を聴いている。業務内容や勤務時間の要望・休み等の意見・要望などがあり反映するように努めている。また、36協定の代表職員を通じて要望を聴いている。	管理者は、職員会議や日常の会話程度の中からも職員の資格取得や研修受講の希望、異動希望、業務上の提案などを聴いている。職員から提案のあった「早番の時間常変更」については、話し合い変更されている。	管理者として常時、運営等に関し職員の意見を聴くようにしているが、加えて人材育成の面から個別面談を年に1回は実施し、各職員の支援業務に係る目標や思いを聴く機会を設けることが望まれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がそれぞれの得意分野を活かして働けるよう配慮している。子育て世代へは就業時間や休日への配慮・職員全般には勤務時間の配慮・希望休の受付をしながら希望に沿えるように配慮している。お互いが気持ちよく働ける職場作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や技量に合わせた研修に参加できるようにしている。各職員へも教育資料を使って研修をしたり理解度チェックをする・WEB研修などを通して勉強する機会を作っている。また日々の業務内でも声掛け・アドバイスをを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ、系列の施設内でコロナのクラスターが発生している事例があり、同業者との交流は控えている。 市やグループホーム協会主催の勉強会などもリモートや資料配布のみになっている。 同系列のグループホーム間で手伝いに行くなどして交流をしている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査や入居時に本人や家族から話を聞き生活の全体像を把握できるようにしている。一緒に生活をして行く中で本人の言動や表情などから困りごとや不安ごとがないか聞いたり推察したりして安心できるように努めている。入居前は出来るだけ本人にも見学してもらい雰囲気を感じてもらえるように努めている。		
----	--	--	--	--	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の事に関する困りごとや不安ごとの他にも家族の経済面や体調面についても配慮し、その都度相談しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報から入居時のケアプランを作成している。その中に可能な限り本人や家族の希望を入れるように配慮している。また、生活する中で必要があれば家族や主治医と相談し必要なサービスを見極める様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者・職員一緒に掲示物を作成したり得意分野で役割を持っていたくなどして関係を築いている。野菜作りのコツを教えてもらったりや梅干しや干し柿作りを手伝ってもらうなどしている。感謝を伝えより良い関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランやモニタリング・広報などの郵送・電話・面会などで施設での生活を報告している。通院の付き添いをして下さる家族には状態を細かく説明し受診してもらっている。入居後まもなくで落ち着かない時は電話で声を聴かせてもらうなど協力してもらっている。また、携帯電話を持っている利用者もあり好きな時に電話をして家族と交流をしてもらったり、家族が利用者の訴えを1時間以上も聞いてくださっている。電話の使い方が分からなくなってきた利用者は職員が代わりに操作するなどして交流できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の訪問理容の方と顔馴染みになっており会話も弾んでいる様子が伺える。面会も時間やマスク着用の制限あるが外や換気をしながらの直接の面会が可能となっている。	外部との交流はなかなか難しい状況にあるが、その中でも家族等に年賀状を送るなど関係継続を支援している。毎月の訪問理髪の方とは新しい顔馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を同じテーブルにしたりお互いに会話したり刺激あって生活できるように努めている。トラブルになりそうなときは職員が介入し楽しく生活できるように努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族や本人に合った環境や場合によってはケアマネジャーとつなぐなど今後の生活の提案などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や要望を説明できる方については内容に合わせて対応している。自身の思いを口に出来ない利用者については日々の声掛けや関わりの中で思いを汲み取れるようにしている。また、希望や意向についてはケアプラン・日誌・申し送りノートなどに記入し職員間で情報共有できるようにしている。	思いや意向を言葉で表出する利用者については、内容に合わせて対応している。自身の思いを表出することが困難な利用者については、選択肢を絞り回答しやすいように工夫し質問したり、表情や仕草などから思いや意向の把握に努め職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族・ケアマネジャー・利用していた事業所などから情報を伺うようにしている。また、入居後のかかわりの中からも生活ぶりを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大事にしている。病状やその日の疲労度などから休息を促したり一人一人の出来る事を把握し一日を快適に過ごしていただけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時の暫定ケアプラン作成の他、概ね3～4か月ごとに短期目標やサービス内容の評価・見直しを行っている。要介護度の変更時や状況が変わるごとにサービス提供期間に拘らず見直しを行っている。ユニット職員で短期目標の評価やサービス内容の見直しについて話しあい、家族に郵送している。	新規利用の場合、利用者・家族に事業所に来てもらったり、自宅や利用事業所を訪問して情報を収集し、暫定のケアプランを作成している。その後1～2か月の間に全職員の見立てを確認し、本人家族の了解を得て、本プランを作成している。3か月ごとの見直しとし安定していれば6か月後の見直しとしている。状況に変化があれば、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌には生活ぶりを記入し、介護支援経過も作成している。また、日々の気づきは記録の他に申し送りやノートを活用し職員間で情報共有するように努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を考慮しながら事業所で出来る事を柔軟に対応している。また、本人にとって今何が必要かを見極め、場合によっては他サービスの情報提供もしたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの玄関前で子供神輿を披露してもらった。お礼にお菓子を渡して握手や会話をするなど交流を図っている。また今年は町内会が合同で八幡宮祭典に山車を出すとの事で自治会長のお力添えをいただきホームの前の道路を山車が通り全員が外に出て音頭上げをしてもらい山車を楽しんだ。 オレンジガーデニングプロジェクトにも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診している利用者・ホームの協力医に変更した利用者それぞれである。家族の意向を踏まえながら適切な医療を受けられるように支援している。必要であれば専門医の受診等も支援している。	入居後に事業所の協力医に変更した利用者のほか、入居前からのかかりつけ医を受診している利用者もいる。かかりつけ医受診の場合は家族が付き添い、協力医へ受診の場合は看護師が受診支援を行っている。必要に応じて皮膚科などのかかりつけ医以外の受診も支援している。予防接種については、協力医が来所して実施している。歯科医の訪問診療も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間の様子や気になるところを看護師に相談・報告し必要があれば受診したり主治医に相談するなどしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ホームの協力医があり急変時の救急対応の際、迅速に対応してもらっている。病院担当者・家族と連携を取りながら必要な情報提供や物品を届けたり、状況を伺うなどして早期退院に向けて支援している。退院後も協力医・主治医と連携を取り症状の変化に注意している。また、必要に応じて協力医に相談し助言・指導してもらっている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの方針について説明し理解してもらっている。状態の変化があるごとに家族・主治医と相談し家族の意向を確認し方針を共有している。	入居時に看取りに関する指針に基づき、重度化や終末期の支援について説明し同意を得ている。状態の変化があれば主治医と相談しながら家族の意向を確認している。状況によっては、新たな生活の場に移行する利用者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については各ユニット内に掲示し慌てたり忘れたりしないようにしている。マニュアルを作成し職員間で共有している。AEDの使用方法・胸骨圧迫の手順・救急搬送の手順等を訓練し危機管理意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行う避難訓練の他、盛岡市のシェイクアウトにも参加し地震・水害時の避難訓練も行っている。地域との協力体制を作るため運営推進会議で話題にあげ地域の連絡網もいただき非常時には自治会長に連絡することとなっている。また、会社としても防災マニュアルや業務継続計画を作成し、有事の際の会社からの応援職員・連絡先等も明記されている。	年2回行う避難訓練の他、盛岡市の地震防災訓練、令和6年度シェイクアウトにも参加している。地震や水害など災害発生時は、系列のデイサービス施設に避難する訓練も実施済みである。地域の連絡網の提供を受け、非常時には町内会長に連絡することなど、地域との協力体制の構築にも努めている。	避難訓練に町内会の方々に参加してもらい、利用者の見守りを担当してもらうなど、無理のないところから、地域との協力体制について一層の充実を図られることを期待します。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活歴や習慣を尊重し一人ひとりに合った、わかる言葉で声掛けしている。特に排泄に関しては大きな声で話し掛けないことや清潔保持等に配慮している。	人生の先輩である利用者の人格を尊重し、排泄や入浴では誇りやプライバシーに配慮して、大きな声で話しかけることは避けている。排泄チェック表などの記録は目に触れないカウンターの下に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクの声掛けは個々に合わせて行っている。選択肢を提示し選んでもらったりしている。自ら意思表示が難しい利用者には生活歴や本人の能力などを考慮し出来る事・興味がありそうなことを提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや体力・疲れ具合などを考慮し居家で静養したり食堂でレク活動をするなど本人のペースで過ごしてもらっている。一緒に生活する中で一人一人の生活リズムは大体把握できている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用している。同じ美容師が来ており顔馴染みとなっている。一人一人に合った髪形にしてもらっている。 季節にあった服・清潔なものを見に付ける事が出来るよう声掛け・介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	屋上菜園で野菜や果物を一緒に収穫したり梅漬けや干し柿づくり・菊の花びら取り・山菜の下処理など得意な利用者に手伝ってもらっている。 季節を感じられるよう旬の食材を使用するように努めている。	献立は、法人本部が作成したものを基本に利用者の趣向、希望、嚥下状態などを考慮して職員がアレンジしている。行事食は敬老会では仕出し弁当、誕生日にはおやつにロールケーキなどを提供し、利用者に喜ばれている。屋上で栽培して収穫したスイカなどは、おやつや食材として活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの咀嚼能力や口腔内の状態・嚥下能力に応じて食事形態を変えている。食欲のない方には食べられるものを提供したり、エネルギーなどで足りない分を補ったりし、時には誤嚥が懸念される方には、軟らか食品(レトルト)を医療食業者より購入して提供するなど、一日を通して必要な栄養・水分を摂れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の歯磨きやうがいの声掛け・必要に応じてブラッシング介助等支援している。 コップや歯ブラシ等は、使用の都度消毒・洗浄を行っている。 必要な利用者は定期的に訪問歯科による口腔内の衛生管理指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前・食後の他、チェック表を活用しながら時間が空いている利用者にはトイレ使用の声掛けをしている。尿量や時間帯において使用するパッドを替え、なるべくトイレで排泄できるように努めている。訴える事が出来ない利用者でも仕草や排泄パターンからトイレ誘導をしている。	利用者の全員が、排泄にあたり何かしらの介助が必要である。排泄チェック表を活用して利用者の状況に合わせた声掛けや誘導をしながら、出来るだけトイレで排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	テレビ体操や軽運動・個別に歩行運動を行ったり便秘予防のためにヤクルトや牛乳・ヨーグルト・繊維の多い食材を使用するなどしている。 また、主治医と相談し本人に合った下剤や座薬を処方してもらっている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回、体調に合わせて入浴している。体調のすぐれない時は翌日に入浴するなど臨機応変に対応している。また、入浴できない日が続いたときはホットタオルで清拭したり衣類交換や足浴・全身清拭などの対応を行っている。	入浴介護専門の非常勤職員が1名配置されている。週に2回、午前を基本に体調に合わせて入浴している。利用者は現在女性だけであり、同性介助となっている。入浴時は1対1でゆっくり話すことができ、利用者の希望などは入浴介助専門職員から報告があり、情報は職員間で共有されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方から就寝前にかけてはゆったりとした時間を心がけ声掛けもトーンを落とし安心できるようにしている。室温や湿度調整・居室内の明るさにも気を付け穏やかな気持ちで入眠できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している物については薬情を確認し内容を把握するようにしている。変更があれば日誌・支援経過・申し送りノート等に記入し確認できるようにしている。処方薬や鍵のかかるキャビネットで保管し看護師・管理者が配薬したものを職員2人で間違いないか確認している。服薬時・服薬後もチェックを行い飲み忘れの無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や能力に応じて役割を持っていただき感謝の意を伝えながら満足感を持って過ごせるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿うことは難しいが、折を見て季節を楽しめるように支援している。利用者から希望が出る事は少ないが声掛けと一緒に外気浴を楽しんだり季節の花を眺めたりしている。	利用者から外出の希望が話される事は少ない。希望に沿った外出は、介護度が上がっていることもあって難しいものの、3名程ずつで近くの橋でのお花見や散歩など、季節を楽しめるように工夫しながら支援している。屋上で職員と一緒にプランター栽培による野菜作りは、外気に触れる機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に紛失などの理由により利用者の金銭持ち込みは行っていない。家族と本人の希望があり同意を得た方については所持している利用者も中にはいらっしゃる。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム やまぶき 1階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話を掛けたり、かかって来た電話を取り次いだりしている。携帯電話を所有している利用者もいらっしゃるが電話のかけ方・取り方が分からなくなっている。本人の希望時に職員が操作し家族や友人と交流できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には植物を配置したり外を眺められるようなスペースを用意している。ベンチに腰かけ外を眺めたりする利用者もいらっしゃる。また温度・湿度・採光に気を付け強い刺激とならない様に工夫している。 また、玄関前や屋上にも椅子やテーブルを用意し外気浴を楽しんだりお茶を楽しんだりできるスペースを用意している。	清掃担当の職員1名がいる。掲示板にはお正月らしい絵馬が飾られ、次の翌月分の飾りを準備中であるなど、掲示から季節が感じられる。両ユニット共有のスペースである屋上には菜園があり、職員と一緒に野菜をプランター栽培している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にも仲の良い方と一緒に過ごせるスペースや一人で外を眺めたりできるスペースがあり、好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットやチェスト・電動ベッドは備え付けである。使い慣れた家具やテレビ・家族の写真を飾ったりと居心地の良い空間となるように工夫している。	居室には備え付けのクローゼット、チェスト、電動ベッド、パネルヒーターがある。テレビや家族の写真を飾り、安心できる居室となるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに分かる力を活かして生活できるようトイレや居室の文字表記をしている。洗面所にも個人の名前を貼り安全に整容が出来る様、必要な利用者には椅子を使用してもらうなどしている。歩行器使用の方には向きを変えて置いたり入床時に靴の向きを変えておく等安全に生活できるように努めている。		